

## キャリア形成を促進する看護基礎教育への課題

—短大卒業生の母校四大化への期待—

古城 幸子<sup>1)</sup>\*・上山 和子・福岡 悦子・宇野 文夫・神原 光・岸本 努・鹿島 隆

1) 看護学科

(2008年11月12日受理)

新見公立短期大学は昭和55年度に開学し、看護学科では既に1,500人を超える卒業生を送り出してきた。また、平成16年度に1年間の保健師養成課程の地域看護学専攻科を新設した。しかし、看護学科3年間と専攻科1年間の積み上げによる過密なカリキュラムの中での教育では、現代の社会ニーズに対応できる人材育成には余裕がないのが現状である。学生の約4割が四年制大学編入や保健師・助産師養成課程への進学を希望しており、その傾向は強まっている。学生の主体性や豊かな人間性を育み、十分な専門的知識と技術とを兼ね備え、医療施設のみならず、家庭、地域、社会への幅広い視点を持った保健師・看護師の育成を図ることを目的として、四年制大学への移行を考えた。

本稿では、看護基礎教育の四大化において、短大卒業生の反応や期待を調査し、卒業後のキャリア形成に寄与する基礎教育の枠組みを明確にすることを目的とした。その結果、回答した卒業生の約9割が四年制大学への移行を望んでおり、教育内容としては専門的な知識技術や人間関係能力など、人間力と看護力を備えた有意な人材の育成を期待していることがわかった。

(キーワード) 看護基礎教育、四年制大学への課題、キャリア形成

### 序論

現在、全国的に看護基礎教育の四大化が加速している。その理由は、医療技術の急速な発展であり、そのため看護職に高度な専門的知識・技術が求められるようになったことにある。また社会的にも患者の人権擁護やインフォームドコンセントの重要性、個人情報保護などの倫理性が求められている。さらに、病院の在院日数の短縮化による在宅療養者の増加や、高齢者ケアに関わる様々なサービスなど、看護職の活動の範囲は多様化し拡大してきている。

看護職の現場、特に病院では新卒看護職の離職率が問題となっており、平成15年度から平成17年度まで3年連続9.3%を示し、特定機能病院の約半数、一般病院の2割で増加傾向にあるといわれている。また、他職種との連携とチームワークは必要不可欠であるが、人間関係能力や、関係調整能力の未熟さが行き詰まり感を克服できない理由ともなっている。4年間の教育の中で、専門的能力のスキルアップとともに、人間的な成長が促される教育が求められている。

また、医療制度の改革による在院日数の短縮化のために、入院前の情報や退院後のフォローアップを継続して

プランニングしていく能力が看護職に求められる。一方で生活習慣病を予防し、健康管理を患者自ら行えるヘルスプロモーションへの支援が必要である。これらは、在宅や地域での生活者としての対象を捉える保健師の視点を学生が身に付けておく必要性を示している。

新見公立短期大学は昭和55年度に開学し、既に1,500人を超える卒業生を送り出してきた。また、平成16年度に1年間の保健師養成課程の地域看護学専攻科を新設した。新卒者の多くは中規模から大規模の病院へ就職するが、数年後に出身地の地域密着型の病院や施設に定着する卒業生も多く、訪問看護やケアマネジャーとして地域で活躍するようになってきた。

しかし、看護学科3年間と専攻科1年間の積み上げによる過密なカリキュラムの中での教育では、現代の社会ニーズに対応できる人材育成には余裕がない。学生の約4割が四年制大学編入や保健師・助産師養成課程への進学を希望しており、その傾向は強まっている。この現象の背景の一つには、社会への巣立ちを猶予したいというモラトリアムの状況が考えられる。医療現場の厳しさに立ち向かうだけの自信と職業的アイデンティティの確立が3年間の看護教育の期間では不十分であると推察される。

学生の主体性や豊かな人間性を育み、十分な専門的知

\*連絡先：古城幸子 看護学科 新見公立短期大学 718-8585 新見市西方1263-2

識と技術とを兼ね備え、医療施設のみならず、家庭、地域、社会への幅広い視点を持った保健師・看護師の育成を図ることを目的として、四年制大学への移行を考えた。

本稿では、看護基礎教育の四年制化において、短大卒業生の反応や期待を調査し、卒業後のキャリア形成に寄与する基礎教育の枠組みを明確にする。

## I 研究目的

本学看護学科卒業生による四大化への意見を分析し、卒業後のキャリア形成に必要な四年制大学教育への課題を明らかにする。

## II 研究方法

### 1. 調査対象

本学看護学科の第1期生（1982年度卒業）から第26期生（2007年度卒業）までの卒業生のうち、住所が明らかになっている1155名を対象とした。

### 2. 調査時期

2008年7月7日から7月26日まで。

### 3. 調査内容・方法

四大化についての意見を「四大化を望む」「短大のままでもいい」「わからない」の3つの回答の選択と、その理由について自由記載で回答を求めた。さらに、四大化した場合に期待することとして12項目を提示し、優先される5項目の選択で回答を求めた。

調査方法は、学報の発送に同封して、調査協力の依頼文とともに調査項目を印刷したはがきを郵送した。はがきの返信により回収した。

### 4. 分析方法

単純集計を行った。自由記載については内容分析を行った。

### 5. 倫理的配慮

質問項目を記載した返信用はがきとともに、調査の目的及び無記名返信による匿名性の保持について説明文書を同封し、返信をもって調査に同意したと判断した。

## III 結果

1155名に発送した結果、返信は155件で回収率は13.4%であった。卒業年ごとの回収数は、表1のように1名から12名までとややばらつきはみられたものの、どの学年からも回答が得られた。

### 1. 四年制大学への移行について

#### 1) 賛否について

表1の総計でみると、本学短期大学看護学科の四年制大学化を、「四大化賛成」と回答した者は136名87.7%であ

表1 卒業年別の回答数

期	卒業年	四大化賛成	現状維持	わからない	計
1	1982	3	0	0	3
2	1983	4	1	1	6
3	1984	6	0	0	6
4	1985	7	0	0	7
5	1986	3	0	0	3
6	1987	6	0	0	6
7	1988	4	0	0	4
8	1989	7	0	0	7
9	1990	9	0	0	9
10	1991	4	0	1	5
11	1992	11	0	0	11
12	1993	3	0	1	4
13	1994	7	0	0	7
14	1995	8	0	1	9
15	1996	7	0	0	7
16	1997	5	1	0	6
17	1998	5	0	0	5
18	1999	1	0	0	1
19	2000	1	1	1	3
20	2001	4	1	0	5
21	2002	5	0	1	6
22	2003	1	0	1	2
23	2004	5	1	0	6
24	2005	3	0	1	4
25	2006	5	1	0	6
26	2007	8	3	1	12
	不明	4	1	0	5
計		136	10	9	155
%		87.7	6.5	5.8	100

った。短大と専攻科という現在のままでよいとする「現状維持」の回答は10名6.5%、「わからない」と回答した者は9名5.8%であった。

#### 2) その理由について

それぞれの回答に対する意見を自由記載で求めたところ、「四大化賛成」は136名中65名からコメントの記述があり、その内容を分析した結果、91のコードが抽出され

キャリア形成を促進する看護基礎教育への課題

表2 四大化賛成のコードと分類

社会背景 (16)	社会的ニーズ (16)	看護系大学化の流れ (14)	時代の流れとともに四大になり母校が水準を上げるのが嬉しく思う。 待ち望んでいた。 時代の流れ。 全国的に四年制に移行するようになっていっているのでいいのではないか。 時代のニーズにあった方向への検討が求められる。 看護教育について、四年制が必要。 今後四大卒のナースが主流になるので大賛成。 看護大学が増えているのでできれば四大化すべき。 四年制移行は世の流れなのでよい。 時代の流れ上四大化した方が学習面でプラスだと思う。 しかし時代の流れから見ると四大が望まれる。 看護四大化に遅れをとらないこと。 四大化して社会のニーズに応えられる大学になってほしい。 社会のニーズに合わせて。 高齢化の今看護の力が必要。
		高齢社会のニーズ (1)	看護師教育のみの四年制が良い。
教育内容・教育効果 (43)	ゆとり (3)	時間的ゆとり (3)	四年制にすることでゆとりといろいろなことを学べる。 実習時間にゆとりができる。 教育には時間が必要。ゆとり教育は看護にも必要。
	教育環境 (5)	家庭的雰囲気は継続 (2)	今のアットホームなところも残ると良い。 元新見女子短大のアットホームな良さを生かしつつレベル向上に期待する。
		施設設備など教育環境整備 (3)	今の校舎ではかなり無理。 実習病院の整備も進めていってほしい。 人材設備ともに充実した大学に。実習指導者もしっかりしたところでしてほしい。
	教育内容 (14)	PHN教育の充実 (1)	四年制になっても保健師教育も十分してもらいたい。
		基礎的知識技術 (3)	知識技術はもろろん身につける。 看護に役立つ知識が必要。 より知識を深められる。
			教育内容のレベルアップ (7)
		専門的知識・技術 (1)	より専門的な勉強ができる。
		理論的裏付け (1)	知識や技術は後からでもつく。理論を頭きちんと入れ手ほしい。
		目的動機づけを明確に (1)	学生の学習意欲、講義・実習内容には十分配慮してほしい。
		考える力 (1)	学生時代に多くの学びより思考過程を明確にしてほしい。
	教育効果 (17)	自己表現能力 (1)	自分以外の多くの意見を聞き表現力をつける時間を確保する。
		実践力を向上 (1)	現場で活躍できるナースが増えることを期待する。
		専門職としての質向上 (4)	人間としても医療従事者にふさわしい人材育成を望む。 資格職として生計稼ぐためには能力を高める必要を感じる。 専門性を高めることが求められる。
		人間性・人間関係能力 (4)	専門職として医師と対等に意見が言える高い知識を持った人を育ててほしい。 自己を知り他人との関係をきちんと作れるのが大事。 人間関係能力や表現力豊かな人材作りに取り組んでほしい。 現在3年制の実習で関わっているが人間性を磨いてほしい学生が多い。 現場の厳しさや責任の重さなどリアリティーショックに負けない学生を育てる。
		忍耐力・持続力 (1)	理想と現実のギャップに耐える忍耐力持続力をつける。
		社会貢献 (1)	社会貢献できる人材育成に力を費やしてほしい。
		広い視野と倫理感 (1)	これからの社会には幅広い視野・倫理観を持った専門職が必要になる。 看護研究にしっかり強化できるようなプログラムがほしい。
地域貢献 (4)	研究的能力の向上 (3)	看護研究能力、レポート提出能力を高めてほしい。 四大卒は看護研究・レポート関係が優れている。	
	地域貢献 (2)	学生確保の困難な時代だが、地域を大切にできる学生が育つことを望む。 新見の地域住民が健康になれるような大学になってほしい。	
キャリア形成 (20)	学歴 (2)	学歴は重要 (2)	どこを卒業しただけ学んできたかは現場での仕事発揮に違いがある。 給料面とか、将来CNSなど目指すときに学歴は大切。
		保健師資格取得が可能 (5)	専門大学、資格の取れる大学としてがんばってください。 早く四大にしてほしかった。保健師の資格がほしい。 保健師資格など編入せずにとれるのはすばらしい。 保健師、助産師の資格を一貫した大学で学べるのはとてもよい。 短期語学研修や、助産師、養護教諭資格取得に期待する。
	資格 (7)	助産師資格も希望 (2)	保健師か助産師を選択できれば様々な希望を持つ学生のニーズが満たされる。 助産師もとれるようにしてほしい。
		キャリアデザイン (1)	ただ看護を学ぶのではなく、将来を考えられるような教育を期待する。
		卒後の選択肢広がる (1)	四大卒の人が増えている。就職の幅が広がるからいい。
		卒後の待遇向上 (1)	四大卒だと給料が短大よりいい。
	リカレント教育 (7)	看護職の地位向上 (1)	看護師の地位向上を望む。
		新知識の学習の場 (3)	在学生以外、社会人にもいい学習の機会が持てたら。 私たちが勉強できるチャンスが欲しい。 仕事をしながら感染管理、看護管理リスクマネジメントなど勉強したい。
		臨床現場の研究機関として (1)	単に四大では魅力がない。臨床にいながら大学で研究できたりすれば有益。
	母校愛 (12)	母校への期待 (12)	編入学希望 (3)
母校への期待と発展 (9)			四大化応援している。母校の発展を喜んでいる。 私も四大に通いたかった。残念。(3) とても光栄で嬉しい。 大賛成。大変期待している。 準備大変でしょうが四大化に期待する。 さらなる発展を期待します。 母校の発展を祈る。
受験生増が期待 (1)			受験者数の増加が期待できる。
大学の知名度向上 (1)			公立の四大なら知名度も上がる。
特色ある大学 (1)			新見の特性を生かした四年大学を期待する。

た。「現状維持」では、10名中9名からコメントの記述があり29のコードが、「分からない」の9名中6名からのコメント記述では11のコードが抽出された。以下、大カテゴリーを【 】で、中カテゴリーを『 』で、小カテゴリーを「 」で、コードを< >で示す。

理由の内訳は、大カテゴリーを【社会背景】【教育内容・教育効果】【キャリア形成】【母校愛】の4つに類型化できた。

① 四大化賛成の意見 (91コード)

表2のように四大化賛成の意見でみると、【社会背景】としては、「看護系大学化の流れ」や「高齢化社会への対応」という『社会的なニーズ』を捉えて四大化を望むという意見が計16件あった。【教育内容・教育効果】は計43件抽出された。「時間的なゆとり」が必要という『ゆとり』、「家庭的な雰囲気は継続」「教育環境の整備」の『教育環境』、「教育内容のレベルアップ」を代表とする「基礎的知識・技術」「専門的知識・技術」の向上を望む『教育内容』に関するもの、「考える力」「自己表現能力」「人間関係能力」など社会人として、また専門職としての質向上に関する『教育効果』に関するもの、「地域貢献」「地域活性化」の『地域貢献』にまとめられた。【キャリア形成】

については計20件が抽出された。「学歴」、「保健師・助産師資格」、「卒後の選択肢」など、また卒業生の「編入学希望」「研究支援」などの『リカレント教育』への期待もみられた。【母校愛】は12件であった。「母校への期待と発展を」「大学の知名度向上」など『母校への期待』を込めた励ましの内容が多くみられた。

② 現状維持・わからないと回答の意見 (36コード)

現状維持またはわからないとした意見を、上記大カテゴリーの中で分析したところ、表3のように【社会背景】に関する意見はなく、【教育内容・教育効果】は26件の意見が見られ、短大の利点として「3年間という短期間の魅力」「家庭的雰囲気」「地域や教員との近い距離」「知識・技術も十分」「人間的成長が可能」という、現在の教育に対する肯定的な評価が見られた。四大化のメリットは賛成意見と同様に、「時間的余裕」「教育内容が強化」されるなどを期待している一方で、四大化によって「目的動機づけが薄い」「実践が弱くなる」といったレベルの低下を懸念する意見があった。【キャリア形成】では、「大学院設置」を期待する一方で、保健師教育が不十分になることや臨床現場での四大卒の必要性を疑う意見もあった。【母校愛】では5件抽出された。「公立短大の魅力」「専攻

表3 「現状維持・わからない」の意見分析

大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー		
		<短大の利点>	<四大の欠点>	<四大の利点>
社会背景(0)	社会的ニーズ(0)			
教育内容・教育効果(26)	ゆとり(6)	3年短期間の魅力(4)		時間的余裕(2)
	教育環境(6)	家庭的雰囲気(2)	今の良い点を継続(1)	
		地域や教員との近い距離(2)	生活環境不便(1)	
	教育内容(11)	知識・技術十分(1)	PHN教育が不十分(3)	教養が強化(1)
		教育内容が充実(1)	目的動機づけが薄い(2)	教育内容が豊かに(1)
			看護の知識不足(1)	
	教育効果(3)		実習時間の減少(1)	
		人間的成長可能(1)	レベルの低下(1)	
地域貢献(0)		実践が弱くなる(1)		
キャリア形成(4)	学歴(0)			
	資格(2)		保健師資格資格(2)	
	卒後(1)		現場では意味がない(1)	
	リカレント教育(1)			大学院を(1)
母校愛(5)	母校への期待(5)	公立の魅力(1)	他大学との競争に不安(1)	
		専攻科がある(1)	定員割れの不安(1)	
			他大学とのランクで下がる(1)	
その他(1)	その他(1)	他の改善点を(1)		

表4 賛否別期待する教育内容

	教養教育	国際化	語学力	倫理観	人間関係能力	自己表現能力	基礎的知識	基礎的技術	高度な専門性	看護研究能力	地域貢献	多くの資格	その他
四大化賛成	62	27	19	50	71	49	65	57	94	57	45	43	6
現状維持	1	1	0	2	3	1	6	5	6	2	1	4	1
わからない	4	0	2	2	5	3	5	3	5	1	3	1	1
計	67	28	21	54	79	53	76	65	105	60	49	48	8
%	43.2	18.1	13.5	34.8	51.0	34.2	49.0	36.8	67.7	38.7	29.0	27.7	5.2

科がある」ことが短大の利点として挙げられたが、「他大学との競争に不安」「ランクが下がる」といった将来に不安を感じる意見もあった。

## 2. 四大に期待すること

四年制大学の教育に期待することとして、12項目の選択肢から、重要と思われる5項目を選択して回答を得たところ、表4のとおり最も多くの回答を得たのは、「高度な専門性」で105名67.7%、次に「人間関係能力」79名51.0%が挙げられた。順に「基礎的知識」76名49.0%、「教養教育」67名43.2%、「看護研究能力」60名38.7%、「基礎的技術」65名36.8%、「倫理観」54名34.8%、「自己表現能力」53名34.2%であった。30%を下回った選択肢は、「地域貢献」49名29.0%、「多くの資格」48名27.7%で、特に「国際化」28名18.1%、「語学力」21名13.5%は期待する教育内容としては少数であった。

## IV 考察

### 1. 卒業生の期待

回答した卒業生の9割近くが、四大化を希望しており期待が大きいことが分かった。看護系大学の四大化の流れは、社会的な現象とも言える急激な変化で、少なからず卒業生の職場にも影響を与えていることが推察された。そして、大学教育での教育内容・教育効果に期待が大きいことも明らかになった。特に教育内容についてはレベルアップできるという期待、教育効果では人間関係能力、専門職として質の向上、そして研究能力の向上など、自ら学ぶ力の育成が問われていると考えられる。

キャリア形成においても、学歴や資格という基本条件を土台にしたいという願望、また卒後の職場や職種の選択肢を広げて、女性特有のライフイベントをハードルにしない職業選択の可能性の広がりが考えられる。さらに

学び続けキャリアアップしたいという生涯学習支援の必要性も示唆された。

現状維持やわからないと回答した卒業生の多くは、現在の短大の良さであるアットホームな雰囲気や、教職員との関係の近さ、凝縮された3年間での学生生活をなつかしみ、その良さを継続してほしいという意見であった。一方で保健師教育が四大では不十分などの意見もあった。また、卒業当時の学生や教員の質の低下を嘆き、四大化への危惧を指摘した意見もあった。

以上のような卒業生の意見を参考に、教育内容については教養教育の充実、保健師教育の充実、地域貢献や最新の電子カルテシステムなど四大にふさわしい科目の設定を検討している。また、開学当時から学生・教職員間の家庭的な雰囲気は現在も同様であり、四大化後も学生定員60名を維持していくため、この雰囲気は学風として継続されると確信する。卒業生の不安や危惧を解消できるような教育体制を確立することに努力を重ねたい。

### 2. 本学四年制大学移行時の教育目的・目標

#### 1. 教育理念

豊かな教養と高い倫理性を養い、多面的な人間理解と専門的な基礎的知識・技術を身につけ、科学的思考に基づく判断力や創造力のある看護専門職として、地域及び国際社会に有為な人材を育成する。

#### 2. 教育目標

- 1) 教養を深め、感性を豊かに育み、社会の一員として自己成長のできる能力を養う。
- 2) 生命の尊重と人間の尊厳を基に、あらゆる世代の対象を多面的に理解し関わることのできる能力と態度を養う。
- 3) 看護学と関連諸科学に主体的に取り組み、人々の健康に関する諸問題を科学的に査定し、個性のある総合的な援助活動が行える基礎的な能力を養う。

- 4) 社会の変化に柔軟に対応できる多様な価値観を認識し、看護専門職として生涯にわたり資質の向上を図ることのできる能力を養う。
- 5) 保健・医療・福祉に携わるチームの一員として、社会資源の活用と他職種との連携の下に、広い視野で社会に貢献できる能力を養う。

以上の教育目標に含めたキーワードは、図1のような構造を示す。高度な専門性に基づいた看護実践能力を高めるために、学生の人間力と看護力を育てることを教育目標とする。そのためには、教養と感性を高め、さまざまな変化に適応できる柔軟な思考を身につけ、自分自身の力で問題解決でき、成長していくことのできる自己教育力の基盤を作る。その上に科学的な知識をもとにした実践できる力を育てていく。

人間力には、主体的に学ぶ力や人間関係能力、多様な価値観を受け止め、自己研鑽を積み、生涯学び続ける姿勢を養う。そして、社会に貢献できる人材の育成である。看護力では、対象となる人々の人権を守り尊厳を大切にでき、多面的な理解を通して個別性や統合性のある対象理解を身につける。さらに多くの人的物的な社会資源を適切に活用できる力や、他職種と連携しコーディネートできる力を育成することを目標とした。

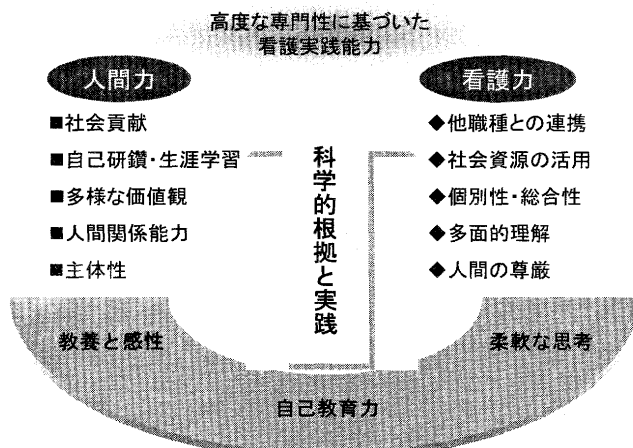


図1 教育目標に含まれるキーワード

### 3. キャリア形成のための基礎教育の課題

四年制大学へと移行する際に、現在の短期大学において積み重ねてきた教育実績を大切にしながら、四大の特色を資料のように7点とした。そのうち、キャリア形成に関連した特色は、「2.夢を実現する学生支援」「5.生涯学び続ける自己教育力の育成」「7.研究能力の向上」である。

四年制に移行したのち、時間的な余裕が大きく増えることにはならない。その理由は、国家資格である看護師と保健師を取得するためのカリキュラムは必要であり、

さらに教養科目は十分に設定されなければならない。そのなかで、看護職へのモチベーションを高め、卒後一人一人が自分のキャリアプランニングに添ってキャリアアップしていく自己教育力を育てることこそが重要になる。大澤ら<sup>1)</sup>は4年課程修了段階では、学生の職業的社会化に関する意識は発達しており、特に、尊厳などの倫理に関する意識の発達と、実習に影響されて専門職意識が高まったと報告している。短大時代と同様に臨地実習を大切にし、学生個々の体験の意味付けと、教員自身がロールモデルとしての存在を意識する必要がある。

また、山内ら<sup>2)</sup>は、大学生のキャリアデザインに関する調査で、看護職の将来像を80%近い学生が描いていることを報告している。その中にはワーク・ライフバランスを大切にしたいキャリアマップを描く学生が最も多く、基礎教育の中での多様な労働条件を選択でき、一方で職業継続意志や専門職としての価値を見出すキャリアマネジメント能力の育成が必要と指摘している。そのような自分自身のキャリアの中で、何を抛り所にデザインを描くかは、学生個々が持つキャリア・アンカーに規定される。キャリア・アンカーとは、アメリカの組織心理学者エドガー・H・シャイン (Edgar H. Schein) によって提唱された概念<sup>3)</sup>である。自らのキャリアを選択する際に最も大切な(どうしても犠牲にしたくない)価値観や欲求のこと、また、周囲が変化しても自己の内面で不動なもののことをいう。シャインは主なキャリア・アンカーを「管理能力」「技術的・機能的な能力」「安全性」「創造性」「自律と独立」「奉仕・社会献身」「純粋な挑戦」「ワーク・ライフバランス」の8つに分類している。キャリア・アンカーを明確に意識するために、入学当初より個人面接などを丁寧に行い、看護専門職としての自己の将来像が描ける科目設定や学生支援を行う必要がある。また、少人数のゼミ形式で行う科目や数人のグループによって行う専門領域実習での指導助言をとおして、自己表現能力や課題解決能力を育て、卒業後も生涯学び続ける力を養う。卒業研究では、学生の主体的な関心や学習を支援し、卒業後の課題解決能力を高めるとともに、キャリア開発を自らの力でできるような自己教育力を養うことができる。

以上のことから、職業的同一性をしっかりと確立し、自己教育力を身に付け、看護専門職として誇りを持った学生を社会に送り出すことが4年間の教育目標となる。現場で長く活躍し、継続して社会貢献のできる人材を育成できると確信する。

### 謝辞

今回の調査に関して、卒業生の皆様のご協力を深謝いたします。

## 引用文献

- 1) 大澤早苗, 内山久美, 山口裕子: 4年課程修了時の職業的社会化に関する学生の意識.39回日本看護学会抄録集, 133, 2008
- 2) 山内栄子, 松本葉子, 杉本吉美, 小岡亜希子, 藤井旬恵, 井上仁美, 後藤淳, 佐藤真紀: 看護大学の学生における卒業前のキャリアデザイン.日本看護学教育学会誌, 18 (1), 43-53, 2008
- 3) エドガー・H・シャイン: キャリア・アンカー.白桃書房, 2003

### (資料) 看護学科の四大化教育の特色

#### 1) 保健医療に関わる質の高い看護専門職教育

30年間の短期大学における看護学科での看護師教育と、5年間の地域看護学専攻科での保健師教育を基礎とし、教養教育を加えて、豊かな人間性や高い倫理観を持った看護専門職を養う。

#### 2) 夢を実現する学生支援

入学当初より進路支援を行い、看護専門職としての将来像が描ける科目設定とした。実習科目では看護師・保健師としてのより実践的な内容を教授する。公衆衛生看護学では、保健師活動に特化した内容を学ぶことができ、看護の探求と発展では、臨床看護師として現場に必要な能力を強化支援する。

#### 3) 地域の教育力を活用するサービス・ラーニング

生活支援看護学実習の中で、地域貢献活動を教育実践とした取組（平成18年度現代G P 選定）を推進する。大学独自の企画運営により地域そのものを実習フィールドとした独創的な教育方法で、地域の教育力を最大限活用したサービス・ラーニングの場とする。

#### 4) 学内演習の充実と推進

実習では体験が困難な電子カルテの取り扱いについて、学内で体験できる教育システム（平成19年度現代G P 選定）を構築し、臨場感のある演習を行う。また、シミュレーションモデルを活用し、充実した学内演習を行う。

#### 5) 生涯学び続ける自己教育力の育成

少人数のゼミ形式で行う科目や数人のグループによって行う専門領域実習での指導助言をとおして、自己表現能力や課題解決能力を育て、卒業後も生涯学び続ける力を養う。

#### 6) 視野の広い人材育成

地域や環境へのローカルな視点を生活支援看護学及び公衆衛生看護学のなかで学び、社会や世界へのグローバルな視点は、先進国や開発途上国への海外研修などの体験をとおして、時代や文化、価値観の変化に柔軟に適應できる人材を育成する。

#### 7) 研究能力の向上

卒業研究では、学生の主体的な関心や学習を支援（平成19年度特色G P）し、卒業後の課題解決能力を高めるとともに、キャリア開発を自らの力で行えるような自己教育力を養う。

古城 幸子・上山 和子・福岡 悦子・宇野 文夫・神原 光・岸本 努・鹿島 隆

**Issues of Nursing Basic Education to Encourage Shaping the Career  
— Junior college graduates' expectation for alma mater's becoming a four-year college —**

Sachiko KOJO, Kazuko UYAMA, Etsuko FUKUOKA, Fumio UNO, Hikaru KAMIHARA  
Tsutomu KISHIMOTO, Takashi KASHIMA

Summary

Our college was founded in 1980 and the nursing department has already turned out more than 1500 graduates. Also, one-year community health nursing course to become a health nurse was established in 2004. However, the fact is that there is not enough room to cultivate human resources that can deal with today's social needs in the busy curricula of three-year nursing department and one-year community health nursing course that are built up each year. About 40% of the students want to transfer to a four-year college or go on to the training course of a health nurse or a midwife, and this tendency is increasing. The transition to a four-year college was considered for the purpose of developing students' independence and rich humanity, and fostering nurses and health nurses that have a good knowledge, skill and a wide viewpoint on a household, a community and a society as well as healthcare facilities.

The purpose of this study was to clarify a framework for basic education that helps to shape the career after graduation through the research on our graduates' responses and expectations for the transition to a four-year college. The result shows that about 90% of the respondents hope for the transition and that, as for educational contents, they expect for the cultivation of human resources equipped with relationship skills and professional nursing knowledge and skills.

Keywords: nursing, basic education, issues of the transition to a four-year college, shaping the career